



友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

春季二科展大盛況で閉幕

友の会もボランティアで協力



(左より) テープカットをする福士孝衛財団理事長・吉井淳二二科会理事
・鷹山ひばり財団理事

予想を大幅に上回る

入場者5204人を記録

鷹山宇一記念美術館において特別企画展として「春季二科展」が五月九日から同月二十八日まで開催されました。鷹山宇一先生が理事を努める社団法人二科会のご協力によって東北地方では初めて実現したもので、吉井淳二先生(二科会理事長・文化勲章受章者)の百

号の作品を含む春季二科展の出品作の他、第七十九回二科展に入賞した青森県在住の作家の入賞作品など絵画八十余点と彫刻十二点が展示されました。

オープニングには吉井理事長はじめ多くの会員の先生方がおいでくださりテープカットの後、レセプションにおいて作品の説明など来館者と歓談をしておられました。友の会の会員もレセプションのお手伝いや会場

の設営、作品の展示、開館中の会場係などに協力し、期間中多くの方がボランティアで運営に参加して下さいました。

春季二科展は内外に大きな反響を呼び、入館者も予想を大きく上回る5204人を記録しました。特に最終日の五月二十八日には新記録となる631人の入場を数え盛會裡に閉幕しました。

県外からおいでになる方や小中学生・高校生の来館者も多く、さらに二度三度と来られる方もありました。地方では滅多にない本物の芸術に触れる機会ができたことを喜び、今後も開催を期待するという声が多く寄せられました。

また新聞・雑誌・放送にも大きく取り上げられ美術館の職員は連日取材の応対に追われていました。少ないスタッフと限られた予算のなかで、大胆とも思える今回の春季二科展でしたが友の会の会員を初めとするボランティアの皆様



のご協力により、来年以降の開催にも見通しができました。

美術館では八月のグランドオープン控え、「スペイン現代作家二人展」など今後も皆様のご理解・ご協力をお願いする企画を予定しています。興味のある方、ご協力いただける方は美術館までお気軽にご連絡下さい。

写真右
オープニングレセプションに協力する友の会会員

春季ニ鑑、展ポラン ティアに参加して

盛田恵津子

友の会の会員として何かお役に立つことができたと思えば、春季二科展の会場係を申し出ました。周囲の友人にも声を掛けたところ、期間中に延べ十四名が応援してくれました。一同、好きな絵と向かい合う時間を過ごしなが、お役に立てて嬉しかったと申しておりました。本物の芸術の場で心が豊かになるようだ、さらに協力できたという満足感とで一挙兩得の感がしました。皆さんが進んで、協力して下さったことは、この美術館を支えるファンがたくさんいるということ。小さいことでも一つの関わりを持ち、「私たちの美術館」という意識が生まれることでしょう。たえず多くの会員に呼びかけ協力していきたいと思えます。

(友の会副会長)

友の会会員より 相次ぐ協力活動

昨年十一月の友の会設立以来、会員より美術館に対する協力活動が相次いでいます。

本年四月には田清百貨店様より店内改装にともない、ガラス製ショーケースが二台寄贈されました。

早速、絵はがき・カレンダー等の美術館グッズや資料の展示に役立てております。

また、以前より来館者から要望がありました休息コーナーのために利用して欲しいと、コーヒーマーカールやサーバーが会員有志より提供されました。

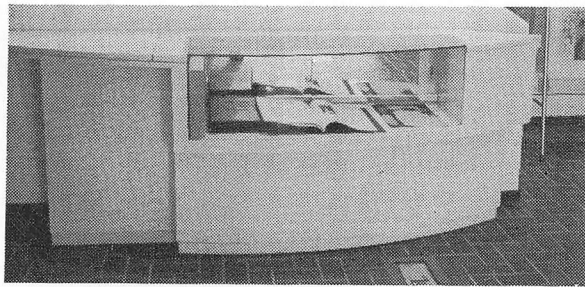
春季二科展においてサービスを実施したところ、大変好評をいただきました。館では今後もサービスを続ける予定です。

さらに写真による資料作成のために、撮影用機材の提供の申し出もあり、有効に活用させていただいております。

写真下 寄贈された展示用
ショーケース
写真右 二科展でも好評だったコーヒーマーカール



もちろん二科展の準備・運営に関しては多くの方々のご協力をいただきました。皆様のご厚意に感謝するとともに、今後も様々な形でのご協力をお願いいたします。



鉄人会（萬鉄五郎 美術館）当館を視察

友の会では本年二月に岩手県内の美術館・記念館を巡る研修会を実施しました。その際に訪問した東和町の萬鉄五郎記念美術館より研究会の「鉄人会」の皆様が、七月二日当鷹山美術館に視察研修においでになりました。



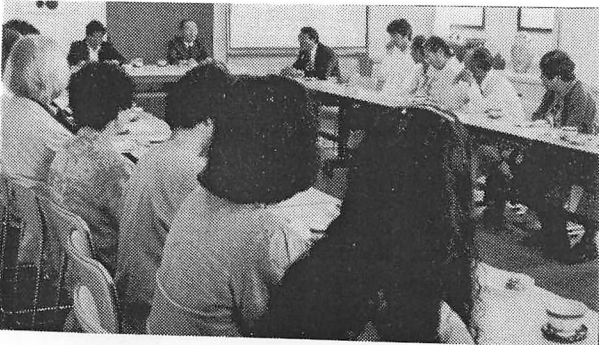
美術館で結婚式

当館職員の成田昌徳さんが五月六日美術館で結婚式をあげました。(写真上) 富士理事長が仲人となり中庭の広場で式をおこないましたが、新聞・テレビ等にも大きく取り上げられました。

美術館では今後も希望者があれば、施設を提供することといたします。

育委員会の戸館課長等と質疑・懇談を行いました。

美術館の運営に関する様々な問題について、率直な意見の交換がおこなわれ、当館にとっても充実した交流の場となりました。



絵馬館回廊・スペイン民芸資料館竣工 8月に美術館グランドオープン

鷹山宇一記念美術館
NEWS & REPORT

NO. 27
平成7年7月

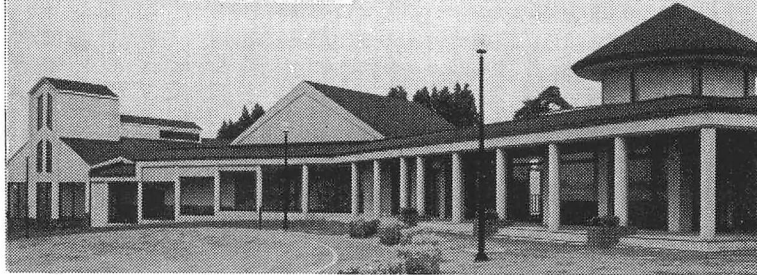
かねてより美術館に隣接して建設が進められておりましたスペイン民芸資料館と絵馬館回廊が完成し、美術館はグランドオープンを迎えることとなりました。スペイン民芸資料館にはバルセロナ・バレンシア・サラマンカなどスペインの各地から収集されたアンティーク陶器285点が展示・紹介されます。また今回、回廊により接続され美術館と一体化されました絵馬館では、七戸町に伝えられてきました国指定重要有形民俗文化財の南部小絵馬が紹介されます。

鷹山宇一画伯の作品を中心とした美術館に加え、世界各地の庶民文化・民衆芸術に触れることの出来るユニークな文化施設が完成したことになります。

八月一日(月)にオープニングのレセプションを行います。なお記念企画展としてスペイン大使館の後援をいただき「スペイン現代作家二人展(エステル・アルバルダネ、ホセ・エル

ナンデス)」を十月一日まで開催いたします。貴重な機会ですので多くの方々のご鑑賞をお待ちいたします。なお企画展においても会の会員の方は各々の種類に応じた特典(無料入館券・割引等)が有効です。ご来館の際は会員証を忘れずにご持参ください。

回廊で美術館と結ばれた
絵馬収蔵庫とスペイン民芸資料館



鷹山宇一記念美術館

グランドオープンにあたって

『カタルーニヤから吹く風は、なにかと私を魅きつける。スペイン戦争とカザルスの歌が始まりだった。中学生だった姉が、図書館から仕入れてきたのだろう。小さい私は、そこに民衆の好奇心と、勇気と、素直さを感じていたように思う。30年も前の事だ。それ以降のさまざまな伝聞も、カタルーニヤに抱く思いを裏切ることなく、明るさに満ちている。しかもありがたいことに、今はカタルーニヤの陽ざしを受けて、具体的な人たちの顔が見える。パコ、エステル、ジョバンニ、ジョルディ、マリオナ、ジリ・・・そしてセスク。昔カタルーニヤの人たちと漠然と思うしかなかった存在が、一人一人の起居振舞、話す表情として思い浮かべることが出来る。この嬉しさは格別だ。サルート!』

この文章は、北川フラム氏が、ご自身とスペインとの関わりについて書かれたものの一部です。アートディレクター北川フラム氏と七戸町との関係は

長く、一九八〇〜八二年(「子供のための版画展」)、一九八二〜八四年(「トライアングル ミュージック ツアー」)、一九八八〜九〇年(「アパルトヘイト 否!国際美術展」)等の開催についてお世話になっております。ちょうど一九八八〜九年頃、七戸町において、絵馬資料館、民芸資料館、美術館等の建設問題が沸き上がった時期です。七戸町を好きになり始めていた北川さんが展示館が出来るならば「自分のコレクションであるスペイン陶器を寄贈したい」と申し出たのです。

今年に入り、スペイン民芸資料館・絵馬収蔵庫回廊など美術館の環境整備が整い、八月一日「鷹山宇一記念美術館グランドオープン」の運びとなりました。北川フラム氏より寄贈されたスペイン陶器(二八五点)は、スペインの各地から収集された、生活に密着し素朴で人の手の温もりが残る、長年の使用に耐え抜いたものばかりです。人種、国境を越え、例えば私たちの「縄文土器」にも共通点のあることに驚かされます。今まさに、名誉町民鷹山先生の名を冠した美術館に鷹山画伯の絵画及びランプコレクション、南部小絵馬(国指定重要有形民俗文化財)、そしてスペイン陶器コレクションが集約されました。この素晴らしい環境の中でそれぞれのコレクションが息吹き、光り輝き合い、新しい七戸町創造の拠点になるうとしております。ご厚情、ご協力、ご理解を賜りました方々、各関係機関に深く感謝しつつ、関係者一同運営に努める所存でございます。平成七年七月七日 濱中達男 (財団常務理事)

絵馬館から

文化村の中では先駆けて建設された絵馬館ですが、この度、鷹山宇一記念美術館、スペイン民芸資料館と回廊によってつながり、ようやく常時開館できるようになりました。そこで、この紙面を借りて絵馬館収蔵の資料について紹介したいと思います。

七戸を代表する文化財として南部小絵馬があげられます。これらの絵馬をはじめとする資料は、平成二年三月二十九日、国の重要有形民俗文化財の指定を受けました。まずその絵馬について紹介したいと思います。

絵馬発生の起源は奈良時代といわれていますが、それ以前は生きた馬そのものを神社仏閣に献上していました。日本人にとつて馬は特別の意味を持つていたことはいろいろな文献に、また習俗、伝説などの中に様々な姿で伝えられています。それは、その馬に乗って人が人間界に降りて幸福をもたらすものと信じられていたことによります。このように馬が神の乗り物として神座の移動に必須のものであるならば、神事、祈願に際しては神霊降臨のために

馬を神にささげることは当然のことと思われまふ。また、日本人にとつて馬は神と人間とのコミュニケーションの手段として神霊視されていたのです。こうしてみると絵馬は日本固有の宗教画であるとも言えます。人々は、奉納した絵馬に描かれた馬にまたがる神の姿を想像し、そして幸福を願つて絵馬を捧げたものでした。

絵馬は一般的に芸術的色彩をもつ扁額形式の大絵馬と民間信仰の要素を中心とした吊掛け形式の小絵馬に分類されます。その奉納目的についてみると小絵馬の場合、祈願もしくは成願御礼に限るといつてよいと思



『南部七戸小田子不動堂奉納絵馬』

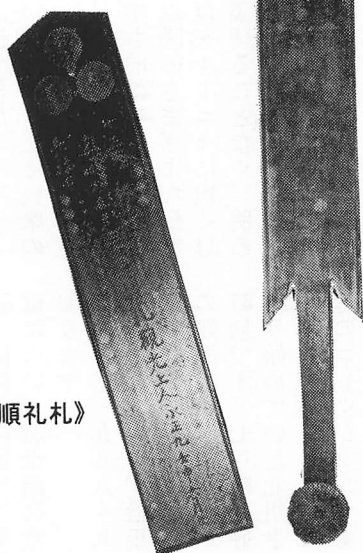
われまふが、大絵馬になるとその目的はさらに広範となり、ある事業の記念や記録、また絵師がその腕を競うのを意図することもありました。青森県内においては、大絵馬では、津軽氏が奉納した岩木町の高照神社の大絵馬が代表的なものです。七戸の絵馬は小絵馬に分類されますが、その性格は、極めて大絵馬に近いものとも言われています。それは、その図柄が芸術的に優れたものであることから容易に推測されます。特に、小田子不動堂に奉納された貞享の絵馬や見町観音堂に奉納された元禄の絵馬などは絵画的で、全体に自由、伸びやかで、躍動感のある表現となっています。また、元禄から享保にかけて奉納された絵馬も、工芸的で一定の形をもち、図案化されたものです。同様の図柄のものが岩手県遠野にもあり、柳宗悦氏によつて「工芸」の中で民芸的に優れたものと広く紹介されました。こうしたことから、七戸の小絵馬は、民間信仰の要素よりも、芸術的色彩の強い宗教画と見ることもできます。いずれにしても絵馬の根底には、日本人の信仰と心情が脈々と流れているものと考えることが出

来ます。

絵馬館には、絵馬の他に特に重要なものとして、見町観音堂に奉納された羽子板があります。羽子板を奉納する風習は全国的に見てもきわめて珍しく、文化庁主任調査官の天野武氏（現在帝京大学教授）の調査によると、兵庫県の福崎町、

江戸末期から明治初期に奉納されていたことが確認されたとのことです。七戸の羽子板の特徴として、薄手であること、透かし彫りが施されていること、様々な図柄が描かれていることがあげられます。それらの意味については不明ですが、左義長羽子板や押絵羽子板と一線を画する描絵、

《羽子板》



《順礼札》

『南部七戸見町観音堂庶民信仰資料』

✓羽子板であることは確かであり、釘で打ちつけ奉納されていた点から絵馬同様の願意を秘めた信仰資料であるといえます。神仏の加護にすがつて、生業の繁昌や人生の無事息災を願つ、

✓このような習俗が存在したことを物語っています。あるいは、羽子板の羽根つき用具としての機能に着目し、厄払いの祈りを込めて奉納されたものとも考えられます。

羽子板については、全国的に様々な習俗が分布しています。それらの事例によると、羽子板は子供たちの遊技用のものであつただけでなく、女兒の初正月を祝う贈答用のものとして、あるいは小正月行事の年占いに使用されてきたことがわかります。さらに、七戸の羽子板の例から、それが私的な祈願を象徴する信仰用具となつてきていることは、新たな発見でもあります。

これらの羽子板は、室町時代のもので推定され、現存する最古の羽子板と言われています。天野氏の言によると、「もし、民俗文化財の範囲の中に国宝に匹敵する分野があれば、これらの羽子板は間違いなくその指定を受けていただろう」との高い評価を受けた貴重な資料です。

絵馬にしろ羽子板にしろ、それらに触れるたびに新たな発見があります。歴史的にも、民俗学的にも新たな関心がわき上がつてきます。絵馬館では、それらのことをふまえながら、さらに調査研究を重ね、すばらしい絵馬の世界を紹介していきたいと考えています。ぜひ二度三度と足を運んで新たな世界を体験していただきたいと思ひます。

「七戸町の春季二科展に寄せて」 出品の先生方よりメッセージ

春季二科展の開会式典や展示指導のため、(社)二科会よりも吉井理事長をはじめ多数の理事・会員の先生方にご来館いただきました。七戸町にこれほど多くの芸術家がおいでになったのは初めてのことでないでしょうか。せつかくの機会です。ので厚かましく友の会のために、寄稿をお願いしたところご快諾され、早速原稿をお寄せいただきました。感謝申し上げます。恐縮ですが紙面の関係で数回に分けて掲載いたしますのでご了承ください。

影が神秘的空間を造り鷹山先生の珠玉の作品とオーバラップして美しかった。

春季二科展は毎年銀座松屋で三月、会員の実験的創造の場として、本年度十八回目を迎えています。七戸の会場には、東京での作品の七割の絵画と彫刻の一部を展示しましたが、二科会を代表する会員の作品を展示できたことは幸いでした。特に今回九二才の吉井淳二先生の「フチタンの女」(メキシコ)百号を春季二科展に展示できたことは近年にないことでした。

又、昨年の秋の二科展に入選した青森支部の作品も展示することにより、親しみを帯びた二科展を観てもらえたのではないかと思っています。

二科展をご覧になって如何だったでしょうか。日本を代表する三大美術展の一つである二科展は、院展と共に秋の美術展のトップを切って、九月一日より毎年東京上野公園の都美術館で開催されます。

五月晴れの七戸の光は明るく、爽やかで美しく、私の心に焼きついています。初めての青森で、一斉に新緑を迎える自然。九州の佐賀では見られない美しさに感動しました。

まさしく、鷹山先生の絵画の原点を観た思いです。七戸の自然は、深い濃緑陰

二科展の特徴は一流一派にとられない作風と自由で清新鋭利たる歩みです。来年は第八十回記念展を迎えます。昨年の七九回展では、

絵画、彫刻、デザイン、写真の作品約二千五百点を展示し、十六日間に約七万五千人の入場者がありました。多彩な作風と題材は誰にも愛され、楽しんでいただける展覧会です。

大作の多い秋の二科展と、春季展を比べると春季展は本当に身近に楽しんで頂けることを願っている展覧会でもあります。

私は地方の美術館で展覧会を観るのが好きです。なぜなら、自分の目の高さでゆったりとした気分で見られるのが何よりです。沢山の作品がなくとも少ない作品を深く味わうのが好きです。

東京にいますと遂々楽しむ事を忘れて知識を得るため、あるいは義理で走り回って絵を見ているのです。疲れだけが残って反省させられることが多々あります。

今回の七戸展が多くの方々に観て頂いたことはこの上ない喜びです。

今、二科会々員の先生方は、秋の展覧会の制作で一年で一番緊張した、充実し

た日々であると思えます。最後になりましたが皆様の御厚情に、感謝して、また、鷹山宇一記念美術館のご発展をお祈り致します。

平成七年六月末記



展覧会の彫刻作品の見方
二科会彫刻部会員
小柳裕紀

日本の歴史、風土、家屋の構造からみて身近な立体作品といえれば仏像がある。仏像は正面と正対して拝むものと考えられている。床の間に生けられる生け花も立体作品であるが、これも一方から鑑賞するものと思われていた。

我々は立体を日常の生活の場に置いて親しむ習慣がなく、接し方は正面性が強い。又、立体として捕らえる感覚も弱いと思う。

展覧会において彫刻作品を見る時、正面からだけでは本当の形を知ることが出来ない。正面から続く側面後面への流れや動きの美しさを感じたい。

「彫刻は難しい」と考えている人は多いが、作者の意図を理解しようとしてより難しくしている。

見る側の感情が如何に動くかということが大切であって、自分の世界(感性)と作品の接点を具体的、抽象的な言葉で語ることが必要だと思ふ。

自分の心と目を信じ、自分の言葉で作品と対話したい。

筆者紹介

大隈武夫 おおくま たけお
一九三四年生まれ
佐賀県川副町出身
多摩美術大学油絵科
七一年二科会会員推挙

小柳裕紀 おやなぎ ゆうき
一九四四年生まれ
新潟県新津市出身
多摩美術大学
八三年二科会会員推挙



写真右
写真左
オープンを前に(左より)

小柳裕紀氏・吉井浩氏
栗山淳氏・福士理事長
大隈武夫氏・高野謙氏
片山評議員・岡村謹史氏

写真下
作品を前に理事長・学芸員
に語る小柳裕紀氏

芸術は解らない、鑑賞の仕方を知らない、私には関係のないものだ。などの言葉を少なからず耳にするが、そう言う人は私も含めて、果たして芸術以外のことなら本当に理解できているのだろうか。解らないのは芸術だけではない、世の多くのことは解らないことだらけではないか。しかし、解らなくて当然でもある。

純粹芸術とは、人間の内なるもの、心にもついているものを、何の目的もなく、制約もなく、自由に（勝手に）キャンバスに表現

し、あるいは造形し、言葉では説明できないものを表現しようとす

るもので、商業芸術とは異なる。鑑賞者は、作者の顔を見たこともなければ、生い立ちも、生活環境も、内なる心の状態も何も知らない関係で作品を鑑賞し、そのすべてを理解できないのは至極当然のことである。理解できないことを、あたかも自分の知識が低いから、などとへりくだり過ぎてはとんでもないことで、作者と鑑賞者である自分の心がこの際一致しない、と考えればよい。多くの人は芸術の専門家でもなければ学芸員でもない。何とかという画家が、何年

に、何のために描いた、などということはプロの勉強する事で、一般人には必要のないことである。もつと、心安く、無理なく、さらりと鑑賞することで十分、それでも度重ねていけば、必ず自分に合った芸術に出会い、すごいと感ずる作品に声も出ないほどに感動するときがある。そうなる迄、見続けてみるとよい。

芸術鑑賞に不慣れなときは、はじめに見なければ作者に悪いとか、時間をかけてギャラリーに長く居なければ低く見られはしないとか余分な気を使うこともなきにしもあらずだが、そんな義務感みたいな気持ちで自分をしばつては芸術が好きになれない。もつと自由な気持ちで、時間を多くかけないで鑑賞する方法がある。好きな画には時間をかけて見るが、好きでない画の前は素通りする、という歩き方で画を見ると、見終わったときに、好きな画は「あれだ」というように、まるでふるいにでもかけた

芸術雑感Ⅱ

高田雨草

れば低く見られはしないとか余分な気を使うこともなきにしもあらずだが、そんな義務感みたいな気持ちで自分をしばつては芸術が好きになれない。もつと自由な気持ちで、時間を多くかけないで鑑賞する方法がある。好きな画には時間をかけて見るが、好きでない画の前は素通りする、という歩き方で画を見ると、見終わったときに、好きな画は「あれだ」というように、まるでふるいにでもかけた

(友の会理事)

七戸町立

鷹山宇一記念美術館

館長 小原恭平氏

平成七年七月十四日

午前二時十分ご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

鷹山宇一記念美術館

友の会役員一同

鷹山宇一記念美術館

職員一同

弔辞

小原恭平さん

あなたの悲報に接して今、私は呆然としています。弥生月の末にあなたは、病臥中にもかかわらず上京して下さいました。忘れもしない地下鉄サリン事件で東京中が大騒ぎの時でした。東北地方では初めて行う春季二科展開催のため理事長はじめ二科会関係者に挨拶廻りをして下さいましたね。私にその報告と共に昨年の開館の折りの挨拶、そして今後の美術館運営について青年のごとく熱情をもって語っておられました。久しぶりに聞く幼なじみの故郷の言葉はどれほど私に心安まる楽しいひとときを与えてくれたか、至福の時でありました。

その帰りの車の中であなたは大きく呼吸され「ああこれで安心した」と深々と腰を下げられ目を閉じたと伺いました。一年前の返礼になかなか上京出来なかつたことをずっと気に病んでいたのでしょうか、そしてその思いを果され館長としての責務を遂行したことがこの車の中の大きな安堵となつたのでしょうか。上京の折ご周囲の反対にもかかわらず「言い出し

たら聞かない人だから」と言つて見送られた奥様、あの時のご心中いかばかりであつたか拝察しても計り知ることが出来ませんが、あなたのお陰で私は恩人とお別れすることができました。厚く御礼申し上げます。病魔におかされ歩くこともままならぬほど病んでいた体を鞭打つがごとく美術館の長として努めを果たされたあなたは春季二科展入場者五千入目の時、車椅子に乗って待機をしておられその瞬間の嬉しそうな笑顔

を忘れることが出来ないと関係者から伺いました。あなたのお陰で春季二科展も大盛會裡におわり、地方都市での美術館の存在について大きな反響を呼び教育の町七戸の名を高らかにいたしました。

恭平さんあなたの生涯は古武士のごとく凛としてご立派な一生でありました。鷹山宇一記念美術館は館長小原恭平の名を永遠に刻み込み心を新たにしてい層の努力を誓いあなたの恩情を決しておろそかにいたしません。どうぞいつまでも見守っていて下さい。平成七年七月十七日 鷹山宇一記念美術館 名誉館長 鷹山宇一



入館者記録となつた二科展 最終日の故小原館長